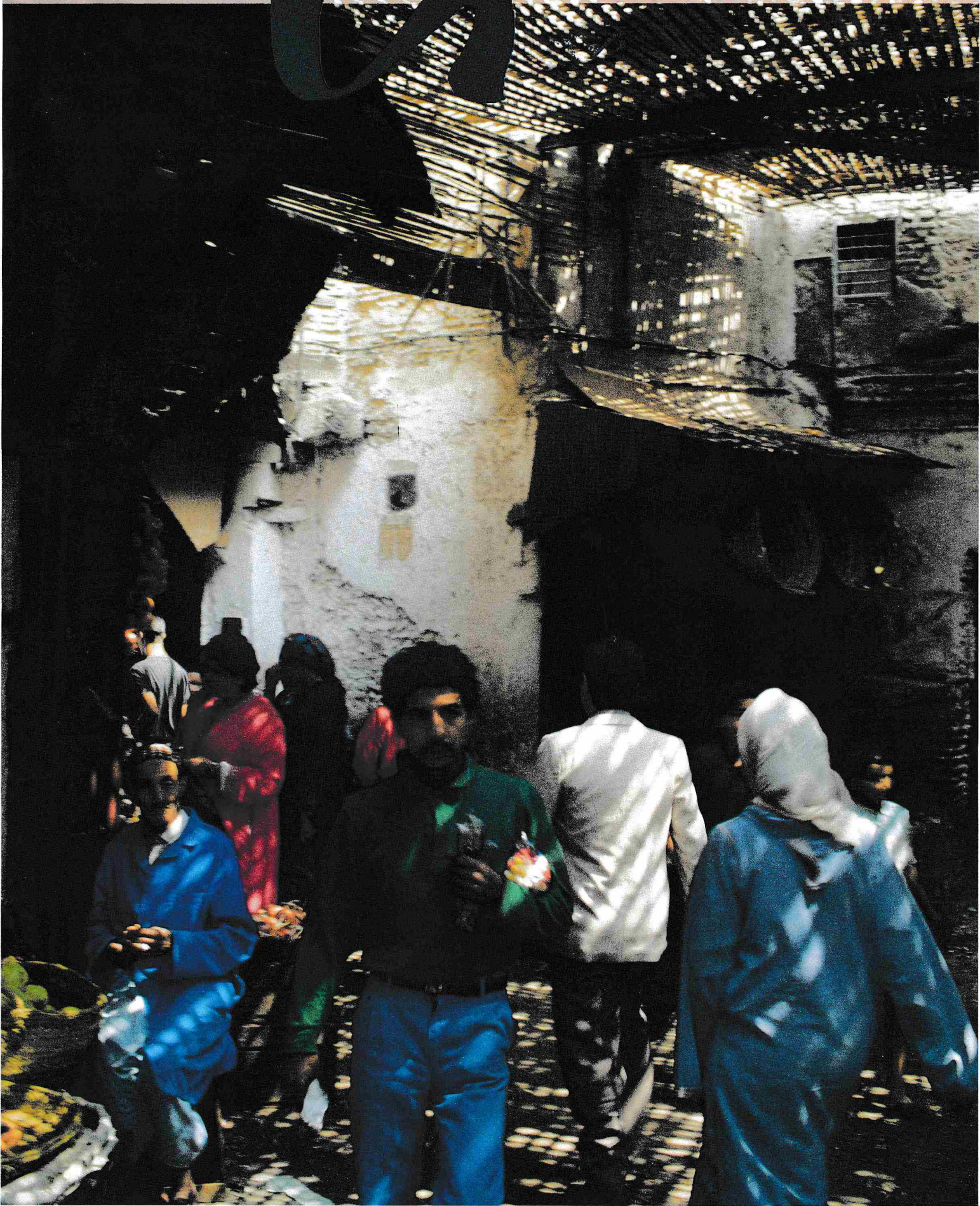


1994/3 No.15

oaca

日本建築美術工芸協会





## CONTENTS

---

### 第3回aaca賞

審査経過並びに審査講評…………… 1

座談会「パブリックスペース&パブリックア  
ートに関するアンケート」を実施して…… 4

### 時代の華一輪

坂本和正……………10

'94滋賀・彦根シンポジウム……………11

### AACAトーク

桑高文雄……………12

坂上みつ子……………13

TOPICS……………14

### ■表紙写真：坂上直哉

場所：モロッコフェズ

我々の忘れてしまった中世の世界が現存  
するモロッコの古都フェズ・バリ。スー  
ク（市場）の天井に張られた簀の子が強  
烈な光をやわらげてくれる。



# 第3回AACAA賞、審査経過並びに審査講評

審査委員長 内井 昭 蔵  
審査委員 會 田 雄 亮  
池 田 武 邦  
榮久庵憲司  
近 江 栄  
仙 田 満

内井 昭蔵  
協会副会長・京都大学教授  
京都市左京区本町  
京都大学工学部建築学内井研究室

榮久庵 憲司  
協会理事・インダストリアルデザイナー  
新宿区下落合2-9-16 GKデザイン機構

會田 雄亮  
協会理事・陶芸家  
渋谷区西原1-8-5

近江 栄  
協会理事・日本大学教授  
練馬区関町北2-5-1

池田 武邦  
建築家・池田研究室  
渋谷区代々木3-25-3  
大東京火災ビル23F (日本設計内)

仙田 満  
東京工業大学教授  
目黒区大岡山2-12-1  
東京工業大学工学部建築学科仙田研究室

## 審査経過

平成5年度第3回AACAA賞は規定により9月30日に締切りをしたところ、44点の応募作品が集まった。その内特別賞候補は7点あった。10月28日当協会において第1回審査会を開催、提出された資料にもとづく選考を行い逐一応募案を検討の結果第一次候補として次の6点を選定した。

- No.3 鹿児島市みなと大通り公園モニュメント〈悠雄〉
- No.20 篝No.1 1992
- No.22 Villa Cypress II
- No.27 郡山市立美術館
- No.29 墨田区庁舎・タウンホール
- No.30 上牧町文化センター

実に厳正に審査を行い、AACAA賞候補作品として以下の2点を選び現地審査の上第2回審査会を開くこととした。

- No.3 鹿児島市みなと大通り公園モニュメント〈悠雄〉
- No.30 上牧町文化センター(特別賞候補)

12月11日、12日の2日間、選考委員参加の上現地審査を行い現地相談の結果、最終選考に当り新たにNo.20 篝No.1 1992を現地審査に加えることとした。

12月18日、現地審査のあと協会会議室にて全選考委員出席の上協議、検討の結果No.20 篝No.1 1992は残念ながら選からは

ずし第1次候補を見直し議論の末 No.22 Villa Cypress IIを入賞とすることとした。その結果

No.3 鹿児島市みなと大通り公園モニュメント〈悠雄〉並びに一連の作品ということで 速水史朗氏

No.22 Villa Cypress IIの作品 木村誠之助氏を平成5年度第3回AACAA本賞に推すことを決めた。



PHOTOGRAPHER TAKASHI HATAKEYAMA





PHOTOGRAPHER TAKASHI HATAKEYAMA

## 審査講評

### 受賞作品.

#### 速水史朗氏の一連の彫刻作品

受賞作品の対象の一つとなった鹿児島市みなと大通り公園モニュメントはこれまでの速水史朗氏の作品の中でも一段と進境著しいものと認められる。現地審査での印象は、彫刻そのものは期待通りであったが、彫刻とその周辺全体との関係に多少の疑問を残した。大通り公園の設計に問題があるにせよ、

彫刻をつくるに当り公園設計者や造園家などと積極的なコミュニケーションが必要ではなかったかと思われる。しかし作品からはヒューマンな感じを受けた。黒御影石の大きなブロックを速水氏独特の形態に分割し、それを結合する方法は彼のこれまでの作品にみられるが、石の新しい表現として注目すべきものといえる。又曲面を使った柔かく滑らかなディテールはパブリックアートとしての大切

な条件の一つである近づきやすさをつくり出してこの広場的な公園にふさわしい彫刻となっている。彫刻は三つの大小のブロックにより構成されているが、その隙間を子供達がすり抜け遊ぶシーンがみられ市民に愛されている様子が解った。今回速水氏はこの作品の他、4点の応募があり、それらを含んで一連の作品ということでACA賞を贈ることを決定した。

### 受賞作品.

#### 木村誠之助氏のVilla CypressII

木村誠之助氏は長い間住宅設計一途にとり組まれ、これまで数多くの住宅をつくってきた。それらの作品はいずれもきめ細かい配慮が隅々までいきなり、ヒューマンでナチュラルな印象を受けるものばかりであった。

今回受賞対象となったVilla Cypress IIは彼の御殿場自宅でありこれまで20年間に亘り徐々に手を入れ、改造を加えてきたいわば理想的な家づくりの結果である。しかも御殿場という自然と、彼の愛蔵する芸術作品、それに音楽などがみごとに一体化された住宅でこれこそ当協会が求めている芸術的環境造形の一つのあり方を示していると思う。この住宅は家

を持つ人達にこれからの新しいライフスタイルの方向を示唆している。豊さがどこか別の方向に行きかけている今日、このような住宅に賞が贈られるのは誠に意義深いことと思われる。



### その他の候補となった主要作品の講評

〈No.30 上牧町文化センター 竹村楊子他〉  
今回芸術的環境創造に対して協力した個人又は団体に対して与える特別賞は残念ながら該当する対象作品がないということになった。しかし最後まで、その候補として残ったのは上牧町文化センターにおけるアートプロデューサーという立場の人の業績であった。  
アーティストをコーディネートし芸術的環境をつくるアートプロデューサーという新しい機能が成立し得るのかどうか問題となり議論された。そこで現場でどのようなことが行われ、その結果がどうなったかを検証しよう、ということになり現地審査に踏み切った。結果は残念ながら今回は見送り今後この問題を検討す

ることとした。その理由として、努力は認められるもののアーティストの代弁すべきコーディネーターの役割が果たされたかどうか疑問が残ったからであり又出来上がった造形はどれも単体としてはすぐれていたが建築との整合性に欠ける点が指摘された。しかしアートプロデューサーの巧罪はあるにしても芸術的環境づくりにとってコーディネートやプロデューサーの意義は大きいことは確認できた。このプロデューサーが職能として成立することを今後期待したい。

### 〈No.20 第1 1992 瀧川嘉子〉

美しいガラスの造形で選考委員一同期待して現地審査を行った。  
しかし、単体としての美しさは認められるが設置場所があまりにも狭く、デザイ

ンの意図が十分に発揮されていないのが残念であった。これは収蔵庫機能が一部変更となって展示空間が置かれ入り口部分が狭いホールになってしまった建築の設計に問題があるともいえる。しかし彫刻側にも与えられた建築空間に対する認識がほしかった。もう少しゆとりが与えられれば十分に能力が発揮できたと残念に思う。

### 〈No.27 郡山市立美術館 柳澤孝彦〉


非常に美しい美術館であり自然環境と芸術が一体となるように工夫されすばらしい建築空間をつくっているのは理解できた。

しかし、自然石を敷きつめた造園が特に強調されているように見えるが、その石の扱いに疑問があった。この石の敷き方は、全面的であって自然との関係がやや硬いように見受けられた。つまりこれからは土とか植物と同様、素材間に生命がつながっていることが大切ではないかという意見であった。

### 〈No.29 墨田区庁舎・タウンホール

久米設計〉

8人の作家の芸術作品と建築が一体化された公共施設である。

この場合は設計者がコーディネートしたわけだが全体に流れるコンセプトが感じられないのが問題とされた。彫刻そのものも自己主張が強くヒューマンな感覚がほしかったとの指摘もあった。 



撮影：「新建築」写真部



# 座談会「パブリックスペース&パブリックアートに関するアンケート」を実施して

日時：平成6年1月19日(水)  
18:00~20:00  
場所：建築家倶楽部（銀座）

「パブリックスペース&パブリックアートに関するアンケート」

対象：a a c a会員  
配布：平成5年9月3日  
回収：平成5年9月27日  
内容：別冊参照

企画・集計作業：調査研究委員会

近江栄（委員長） 日高單也（副委員長）  
石井博美 小林治人  
坂上直哉 竹村楊子（座談会欠席）  
露口典子 野老正昭（座談会欠席）  
中島美枝子 守屋秀夫  
山本誠

## 日高

調査研究委員会でPA（パブリックアート）をとりあげた経緯とそれぞれの内容は、別冊にくわしく書いてありますので、そちらをお読みいただくとして、ここでは、昨年9月27日におこなった会員対象のアンケート調査の結果を中心に、少し話してみたいと思います。

## 近江

a a c aが設立されて丸5年が経ちますが、このようなアンケートをとったのは初めてだね。

## 守屋

いや、面白かったですね。ずいぶん会員の問題意識や世の中の流れもわかりました。

## 坂上

プロの集団なんだから、それぞれにいい意見をもっているし、まとめてみると、全体としても、とても良い意見になっている。ただ、お互いのコミュニケーションができていないし、誤解しているところもあるようですね。

## 石井

アンケートを回収して、集計上グラフをつくってみて、まず驚いたのが、若い世代が少なかったことです。a a c aの会員構成も、こうなのでしょう。（図1）

## 中島

職種としては、かなりいろんな方々がいらっやいました。これは、建築・美術・工芸と多分野に会員がわたっている特色ですね。それがアンケートにも表れて、多方面からの視点が得られました。（図2）

## 小林

最初に出した扇形の図「パブリックスペースの構成要素」も効果的でしたね。（図3）

## 坂上

あれはインパクトがあった。

## 山本

あの図は、何を意味するのかわからないという批判も回答の中にあっただけですが、PAをどうとらえるかという、野外彫刻レベルではなくて、広くとらえる一つのきっかけにはなったと思います。

## 坂上

あれは絵みたいなものですから、一番前にパッとおいっておけばいいんです。

## 日高

扇形にいれたアイテムは全部で105ありましたが、回答を見ると、わりと幅広くPAの対象をとらえようとしている人が多かったわけですね。

## 守屋

アンケートは何通出したんですか。

## 日高

個人会員と法人会員、あわせて750近く発送して、回答をいただいたのが160ぐらいでした。

2回にわたるトーク、3回にわたるアンケートをみてみますと、皆さんこの問題について関心が深く、これは一度まとめて発表する必要があるということになったわけです。

どのようにまとめたかについて、簡単に説明してくれますか。それから、寄せられた意見内容について話していきたいと思います。

## 露口

ではまず、アンケートの質問を再確認してみます。

問1は、「パブリックアート」という言葉を皆さんがどうとらえているのかを確認するために、あえて、多種の構成要素から選択してもらいました。

問2はPAの現状評価で、ここで、もっと良くすべきだ」と答えた方々に、現状の問題点をあげていただいたのが問3・4です。

## 守屋

円グラフをみると、圧倒的多数が現状を批判しているようですね。（図4）

## 露口

あげていただいた現状の問題点は、全部で397あり、それを傾向別に9分野に分けてみました。

1. 質・レベル・調和	81（意見数）
2. 環境・景観	67
3. プロセス・選考システム	67
4. 教育・啓蒙・モラル	64
5. 理念・考え方	50
6. 行政・制度	32
7. 経済・予算	17
8. メンテナンス・撤去	16
9. 情報	3

## 1. 質・レベル・調和

### 守屋

こうしてみると、先程の、現状を批判している人が何を批判しているかということ、質が悪いと言っていることが結構多いということですね。

### 近江

397分の81ということは、ウエイトが重いね。

### 露口

質・レベル・調和に関しては、ほとんどが現況への批判でした。a a c aは批評家の組織ではなく、つくることを生業としている団体です。その意識が、このように悲観的に傾いていたので驚きました。内容としては①統一性がない②作品・作家のレベルが低い③どうして悪くなるの



図1 / 回答者の世代

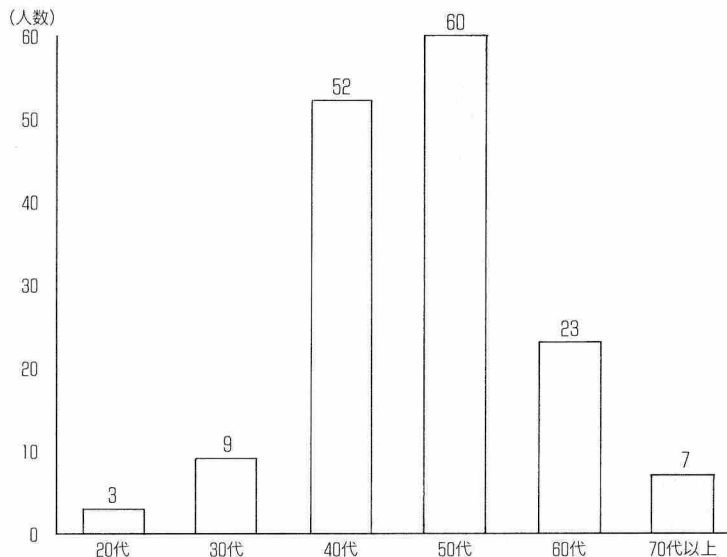
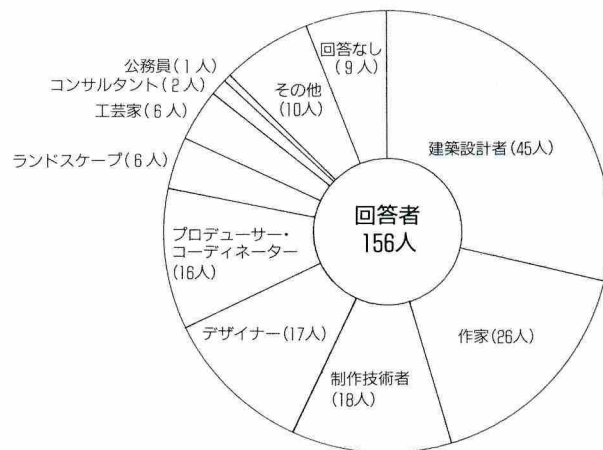


図2 / 回答者の職種



か(4)一般的PAの枠を越えてと、4つぐらいに分けられました。

**中島**

この中で圧倒的な数を占めたのは、統一性がないことへの指摘ですね。

**坂上**

作品をつくる仕組みが、社会的に未成熟であるとの指摘もありました。

**石井**

日々感じていながら、いかんともしがたいこれらの問題解決を、アーティストたちはa a o aに期待しているともいえると思います。

**2. 環境・景観**

**日高**

2番目に多かったのが、環境に問題があるという意見で(1)自然的環境との調和はどうか(2)都市的環境との調和はどうか(3)環境に対する提言といったことに寄せられていました。

実際につくられているものは、はっきりいえば調和していないじゃないかという意見がかなり多いわけです。

それと、日本以外の、例えばイギリスだとかアメリカではこういうふうになっている例がありますよという意見もありました。

「都市的環境との調和」では、日本の昔の街並みのようなものを頭において、現代を批判しているというようなのが、わりとはっきりとした意見かなと思います。ごくあたりまえの街路灯とか道路の舗装、あるいは水際といったことに関して、これでいいのかという意見も多かったですね。

**中島**

それから、もともとあった樹木を切って

まで、そこに人工的に広場を作って彫刻等を置くことは疑問だというような意見もありましたね。

**日高**

「環境に対する提言」というのでは、建築あるいは環境というのは、どこまでとは、とらえにくいのですが、全体の中で考えてほしいというような意見がかなり多いと思います。それから、地区とか街並みというレベルで、環境をとらえて、その中で考えるという意見です。

**小林**

質や環境の分野に意見が集中したのは、うなずける気がしますね。

**石井**

昨年4月12日と23日にとった1回目、2回目のアンケートは、会員の方より一般の方々が多かったのですが、やはり、この問題を指摘する意見が一番多かったですね。

**近江**

目につくところから問題意識は起きてくるわけで、ものを作り出すプロのわれわれとしては、どうすべきかという難しい問題をつきつけられていますね。

**3. プロセス・選考システム**

**坂上**

具体的にどうすべきかという問題が、「プロセス・選考システム」に出てきています。そのままアンケートをまとめていたらストーリーができてしまったという感じです。

つまり(1)PAは安易に設置されていない(2)PA空間を作るシステムがない(3)ボーダーを越えてのコラボレーション(4)一般の人々とのコミュニケーションが必要(5)オープンな審査方法と基準(6)責任の所

在はどこに、となりました。

ここで大きな問題は、「PAをつくるシステム」の必要性を皆考えている点ですね。この問題で、総合的にコーディネートする主体がない。要するにプロデューサーとかコーディネーターというのは、単にここにあるものをあっちに持っていくということではなくて、その場の考え方というものを、作家や行政とか建築家だとかと一緒に考えていって、作品を創り上げていく。これはトークやアンケートでも強くとりあげられていました。

**露口**

アンケートの中で面白かったのは、問5の「今後PAにどのような立場で関わっていきたいとお考えですか」に対して、「プロデューサー、コーディネーター」に○をつけられた方が、回答者の21%を占めていたことです。(図5)

**守屋**

今の時代を表しているといえますね。

**石井**

プロデューサーと答えた方々の分野をグラフにしてみました。回答者が現在携わっている仕事の分野別グラフとあわせてみると、興味深いものがありますね。

(図6、図7)

**4. 教育・啓蒙・モラル**

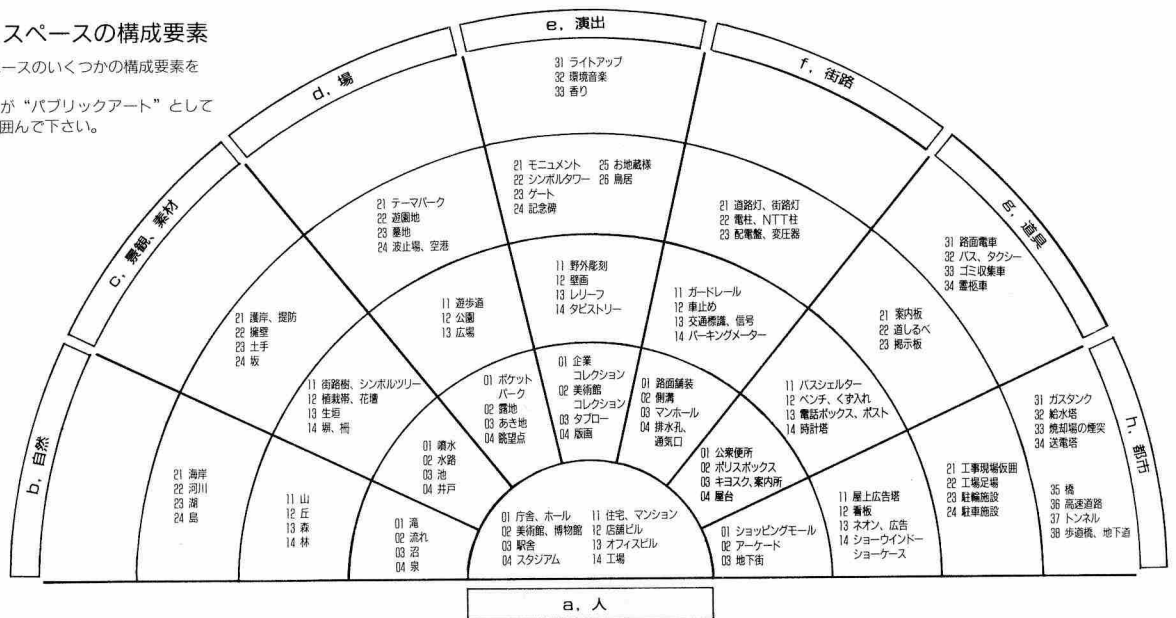
**近江**

「教育・啓蒙・モラル」というのは、他の分野の意見と随分重なっているんですよ。例えば(1)市民も行政も企業も意識が低いということで、行政の問題ができておりますし、質の問題もからんできています。さらに(2)作家側のモラルが低い(3)PAを一般社会に啓蒙すべきであるという指摘に続いて(4)人材育成と教育問題



図3 / パブリックスペースの構成要素

次の図は、パブリックスペースのいくつかの構成要素を並べてみたものです。これらの要素から、あなたが「パブリックアート」として考えたいと思うものを○で囲んで下さい。



という重要な問題が指摘されていました。

**山本**

「作家のモラルが低い」というのでは、「生活空間に必然性のない形体において、それをアートとしてしまう稚拙なアイデアは困る。行政の側はもっとアートを学ばなければならない。また、作家はオリジナルな仕事をして、これを啓蒙していく」というようなことの指摘があります。これは本当にそうだそうだという感じです。

**近江**

やはりここで、先程のコーディネーターのことがでできます。「コーディネートする人達の質の向上が大切」との意見がありました。実は質の向上をする前に、そういうスペシャリティをもって、職業としてやっている人が成り立ちにくい状況があるということです。

プロデューサーを育てることの意味合いは、上手に説得力のある方法で出していないと…。どこにそういう実績があるのかが、今、問われる段階のような気がします。僕はその必要性を十分認めているんですけど…。

**小林**

この項目が、何か今回のPAの核心に触れた意見がたくさん出ているように思うんですけどね。

**5. 理念・考え方**

**守屋**

次の「理念・考え方」は、全体にかかわることだと思えます。PAとは何かという問題で、ここが一番重要になってきますね。

ここに集められた意見の傾向としては(1)アートとPA(2)アート性とデザイン性(3)

パブリックとは(4)PAの成立背景(5)PAの定義について述べられていました。

**小林**

ここが一番基本になるということでは、この「理念・考え方」を最初にもってくるかなというふうに感じます。

**露口**

本来でしたら、「理念・考え方」が最初にくるべき問題なのですが、今、ここがみんなハッキリしていないので、トークをしたり、議論をしていると思うのです。

**坂上**

従来の美術館の中とか室内にあった個人の持っていたようなアートと、建物の外へ出てきてだれの目にもつくところにあるアートというものは、違うのか同じなのか…このあたりも今後、おおいにトークで話されるべきことですね。

**守屋**

興味深い意見として、このようなものがありました。

「アーティストの作業が社会生産の環から、個人的な問題へと押しやられ、生産の現実と分化された現状をよく目のあたりにする。この致し方ない社会制度をどうしたらよいのだろうか」

「デザインとアートの区分けはむづかしいが、デザインをアートとは呼びたくない。心に訴えるものをアート (PA) と呼びたい。デザインと区別されたらどうですか」

「PAは、多くの分野の方々の参加がないと成り立たない。そのことをまず認識した上で、相互のコミュニケーションをとることからはじめたい。PAの基本は“コミュニケーション”だと考えます」「日本の場合は、芸術的(?)自己主張と金銭的合理性と役所のタコツボ的権利、管

理行政のカオスがPAになっている。看板の乱立、街並みの不統一、電信柱、団地の洗濯物の景観の中にアートを入れるこの混沌こそ日本的PAかも」

**小林**

そうですね。今の時期には、あまり我々の主観的なことをいれると…。せっかくやった調査ですから、できるだけ客観的に、正確に、皆さんに見ていただいたほうがいいと思いますね。

**6. 行政・制度**

**日高**

では、「行政」へすすみましょう。

**山本**

「行政」については、中身を読んでも、会員の皆さんが、行政との対応でかなりの苦勞をしており、かつ強い不満を感じていることが読み取られました。具体的には(1)行政システムと体質が問題(2)PAに対する理解不足(3)規制は必要か(4)行政とどう関わるか、ということが出ていました。

**守屋**

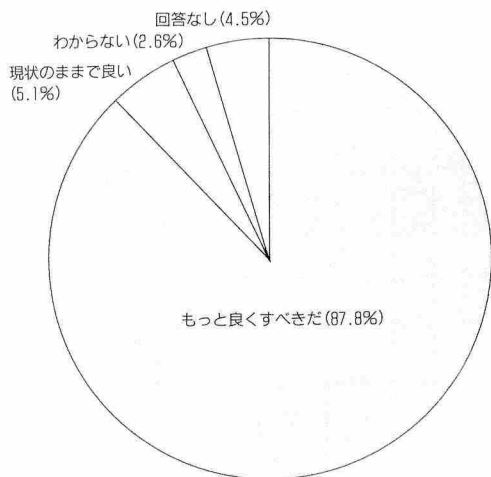
「行政」と括ってありますが、これはやはり2つある。1つは、PAを設置するものとしてのというか、オーナーとしての自治体という意味と、それから人がやることに対して規制をほどこそうとか、街づくりの方針を決めようとかいう意味での行政という、その2つが入っている。

**山本**

そうですね。オーナーの質という意味では、タテ割り、前例主義、単年度予算、市長の任期単位といったシステムや体質問題と、行政サイドに美意識や環境に対する哲学がないといった質の問題の指摘。2番目の規制という意味では、街並みや



図4 / PAの現状評価



建物の色彩、看板といった景観規制を求める意見がかなり多い。また、作家として、権力的に規制されていくことに対する不安の訴えもありました。

**小林**

ここに分類した総数32で7.9%ですが、他の分類に含まれる行政に関わるものも含めると、かなりの数になりますね。即ち行政に対する不満と同等以上に、期待されているということです。

**坂上**

行政自身、審査システムを考えて欲しいという意見もありました。

## 7. 経済・予算

**日高**

これに非常に関連していると思われる「経済・予算」の分野はいかがですか。

**山本**

意見総数は17で、さほど多くはないのですが、これも「アート」「環境」といったそのものにお金をかけない、ものづくりということに金をかけない面と、「企画」「デザイン・設計」といったソフトに対する予算が少ないと、予算に対する理解不足があるということが指摘されていました。

1%条項の問題も出ており、土木工事に対しての不満というのがかなりありました。土木工事に、デザイン予算を5%ぐらい義務づけろというような意見もありましたね。

**近江**

デザイン予算5%を義務づけるといのは…。

**小林**

これはPAにというように理解していいんじゃないですか。文化のための5%と



いうことで、べらぼうな数になりますけれども、要は、PAに対する経済的評価が低いという声が出ていないのでしょうか。アンケートの結果は、評価が低いということじゃないかと…。

**坂上**

ただ、彫刻なんかはばかに高すぎるみたいな話が入っていますね。

**小林**

それは、また評価の問題なんでしょうけれどもね。

**坂上**

ですから絵だとか彫刻というのは、美術品としての号いくらみたいな評価があつて、それとは違う評価システムがPAにはないとまずいんでしょうね。

**小林**

しかし、意見としては、お金が足りないというようなことがずっと並んでいますよね。箱が優先されてソフトに予算が足りない。

だからまずは、PAの経済的評価を高めるべきだというほうが、より積極的かもしれないですね。まとめた意見を汲み取ればね。

## 8. メンテナンス・撤去

**中島**

「メンテナンス・撤去」ですが①維持管理はどうするか②撤去・整理が必要という2つに大きく分けられると思います。今あるものを撤去したり、あるいは整理することもデザインであるということで、この辺を考えていかななくてはいけない時期にきているといえますか…。そういう指摘がかなり出ています。

**近江**

撤去する方法というのは、何かあるんで

すかね。例えばアンケートにあるように住民投票でとか。

**山本**

たぶんその辺は、今はないと思うのです。ですから行政サイドとしては消極的な意味で、名前をつけたくない、ある場合には名前をだしたくないという無記名制度を要求される場合もあります。

**石井**

無記名でも同じなのではないですか。

**山本**

いや、行政としてはその方がやりやすいみたいですよ。

**近江**

だれが置くことを決めるのか。だれが撤去することを決めるのかというあたりが…。

**山本**

それが問題ですね。

## 9. 情報

**守屋**

次の「情報」ですが、意見の数としては3つしかありませんでしたけれども、これで少数意見というべきかどうかは多少問題があります。

これも大きく2つに分けて、いずれも情報不足なんですけれども、発注者の方から見て、どういう作家がいるのか選びたくてもその情報源が少ないから困るという意見と、作家の方から見て、自分をPRするためのシステムがないからどういふふうにならいいのかわからないという意見でした。

**石井**

それはデータベースの問題ですね。そうすると、全会員の、アクセス可能なビジュアルのデータベースについて考え



図5 / 今後PAにどの様にかかりたいですか

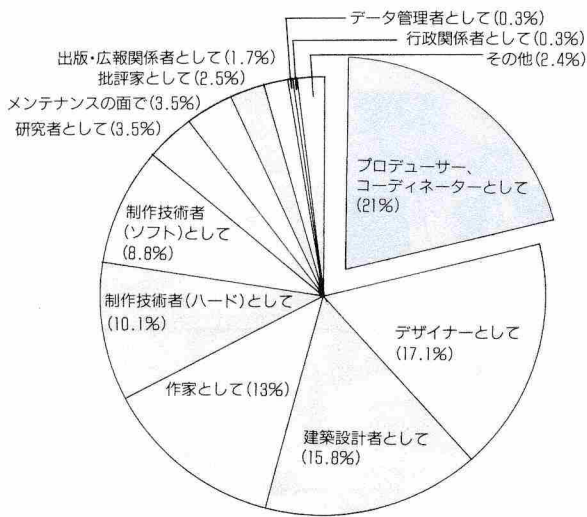
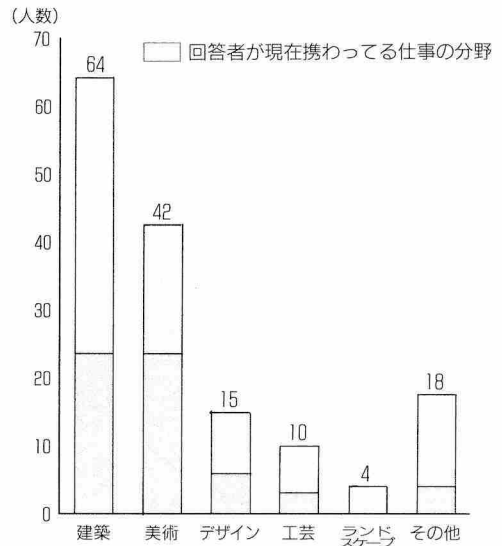


図6 / 図5で(プロデューサー・コーディネーターとして)回答者の分野別傾向



てもいいですね。

### aa ca 調査研究委員会に期待すること 日高

問3・4に寄せられた意見を意見数の多い順にみてきましたが、今度は、問6の「aa ca 調査研究委員会に期待すること」に対する意見についても、話してみたいと思います。これも、おおまかに分けてみたところ、8つぐらいの大枠になったんですね。

1. 研究・調査について
2. データーベースについて
3. 交流について
4. 具体的な仕事について
5. 教育・啓蒙・PRについて
6. 行政への働きかけについて
7. aa caのリーダーシップとシステムづくりについて
8. 励ましの言葉

### 近江

7番目の項目で「関西では存在があまり知られていないので、何とかならないか」という意見がありました。調査研究委員会のメンバーには、関西から竹村さんに参加していただいています。それが精一杯で、全国的にこれを広げていくためには、もう少しaa caの基盤整備がきちんとしてからという気がします。いきなり全国ネットワークで展開するには、ちょっと時期が早い。それから、広報というか会報で情報を提供するということが、なかなかできない。もしやれるとしたら、aa caの主催で関西でトークをやるぐらいのことしか、私は今のところ思いつかないのですけれども。

### 坂上

会員は全国に散らばっていますし、遠距離の人はトークに参加するにしても、大変なハンディがあるわけです。トークを他の形でやれないかと…。

### 石井

アメリカの情報ハイウェイ計画には及びませんが、日本でもだんだんマルチメディアが日常生活に入ってきますので、近い将来、パソコン通信を通じて、会員相互の情報、例えば、自分のかかわったスペースの紹介とか、展示会のお知らせなどが出来るシステムを作ればよいと思います。会員のデーターがそろってくれば、会員がいつでもアクセスできるわけです。

### 山本

今、話しが出たトークなんですけれども、前回、調査研究委員会で行ったのは、パネリストタイプではなくて、参加者全員が意見交換をするトークがありましたね。あれはすごくいいと思うんですね。あれは年うちの何回かは、何かテーマを決めた話し合いの場にしていくということも、考えかなと思います。

### 露口

トークでも話したい人がいっぱいいたし、アンケートでも意見がぎっしり書いてあるので、皆さん言いたいことがすごくおありになるんじゃないかと思うのです。それを今度、また積み上げていって、何か皆さんの声といいますか、協会として、PAについてはこういう考えをもっていますというところまで持ってこれたらいいですね。

### 坂上

「調査研究委員会としていいと思う作品を挙げてくれ」みたいな意見もありますね。それは、非常に難しい問題かと思う

のですが、その辺の積み上げが、本当にトークとしてなされていけば、審査基準みたいなことも言えてくると思うのです。

### 近江

多分、このデータが会員に配られて、今度トークをやるときは、レベルがグッと上がりますし、テーマを絞っても、相当密度が上がろうな期待はあるね。

### 坂上

そうですね。

### 近江

こういうものがあればね。皆さんがどんな意見をもっているのかなというのは、大体これで見当がついてきましたからね。そうすると、自分があまりとんでもないことを考えているわけではないということがわかった安心感とか、これはだめだなと思ったり、何かあると思うよ。

### 山本

さらに次の段階の調査内容になってしまいうのかもしれないけれども、自薦、他薦含めて、いい例を出してもらおうようなプラス面の調査もいいと思いますが。

### 坂上

まだ、アンケートが足りないですね。

### 近江

何がいいと思っているのか具体的な写真を付けて送ってもらうとかね。

### 坂上

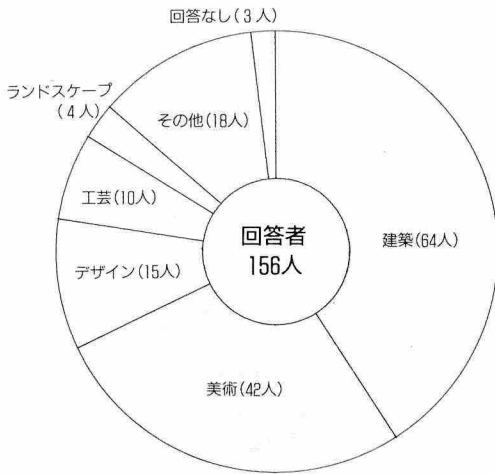
この活動を続けていくためには、サッカーではありませんが、調査研究委員会でも、サポーターが必要ですね。

### 小林

それが負担にならないように、ほどほどのところでやりながら、何とはなしに、核心があるような、どうもそんな行き方がいいみたいですね。強烈なリーダーシップでやっていくのは長続きしませんか



図7 / 回答者が現在携わっている  
仕事の分野



らね。

近江

そう、くたびれちゃうからね。(笑)

小林

何かコーディネーター的なやり方で、やんわりとやっていくほうがいいですね。

露口

調査委員はナビゲーターみたいな役割ですね。

小林

むしろ企画力が問われるのでしょうかね。

日高

そうすると、今の意見が、大体このアンケートを受けた我々の、今後の対応の仕方と考えられるということですね。

近江

前向きな意見も出ましたしね。

守屋

だけど何と言っても、我々の話しより、実際のアンケートの方がはるかに迫力がありますね。

露口

回答者ひとりひとりの個性がでていて、読んでいて楽しいですよ。やはり、別冊をぜひ読んで欲しいですね。

日高

では、ありがとうございました。

## aaca調査研究委員会メンバー



建築史家  
日本大学教授  
近江 栄



アーティスト  
アートワーク室主宰  
坂上 直哉



画商  
ぎやらりえ・るたん  
代表  
中島 三枝子



建築造形家・  
デザイナー  
日本大学教授  
日高 単也



インテリアデザイナ  
ー・アートプロデュ  
ーサー  
㈱AD&A代表  
竹村 楊子



建築家  
千葉大学教授  
守屋 秀夫



プロデューサー  
アートフロントギャ  
ラリー  
石井 博美



プロデューサー  
アートワーク風場  
主宰  
ニッシンプランニン  
グ所属  
露口 典子



環境デザイナー  
㈱ワイディー代表  
山本 誠



ランドスケープデザ  
イナー  
㈱東京ランドスケ  
ープ研究所代表  
小林 治人



建築家  
㈱野老設計事務所  
代表  
ところ  
野老 正昭

## PAの現状の問題点まとめ

<分野>	<意見数>	<意見内容の傾向>
1. 質・レベル・調和	81	(1) 統一性がない (2) 作品・作家のレベルが低い (3) どうして悪くなるのか (4) 一般的PAの枠を越えて (5) その他
2. 環境・景観	67	(1) 自然的環境との調和はどうか (2) 都市的環境との調和はどうか (3) 環境に対する提言
3. プロセス・選考システム	67	(1) 安易に設置されていないか (2) PA空間を作るシステムがない (3) ボーダーを越えてのコラボレーション (4) 一般の人々とのコミュニケーションが必要 (5) オープンな審査方法と基準 (6) 責任の所在はどこに (7) その他
4. 教育・啓蒙・モラル	64	(1) 市民も行政も企業も意識が低い (2) 作家側のモラルが低い (3) PAを一般社会に啓蒙すべきである (4) 人材育成と教育問題
5. 理念・考え方	50	(1) アートとPA (2) アート性とデザイン性 (3) パブリックとは (4) PAの成立背景 (5) PAの定義
6. 行政・制度	32	(1) 行政システムと体質が問題 (2) PAに対する理解不足 (3) 規制は必要か (4) 行政とどう関わるか
7. 経済・予算	17	(1) 経済的評価を高めるべきだ
8. メンテナンス・撤去	16	(1) 維持管理はどうか (2) 撤去・整理が必要
9. 情報	3	(1) 発注者からみた情報不足 (2) 作家からみた情報不足





インテリアデザイナー  
KAZUMASA SAKAMOTO  
**坂本 和正**  
方圓館館長  
世田谷区松原3-18-11  
TEL.03-3322-1217

## アートではないアート

東京駅から皇居のお堀に向う途中に「大手町ファーストスクエア」という新しい高層ビルがある。そこの23階の“宴”は、和洋ふたつのレストランと宴会場を営業している。部屋がいくつにも分かれていて、いろいろな趣向のアートワークがしつらえられている。そのうちのいくつかを、いささか場違いとも思える私が制作することになってしまった。

事の起りは、以前私が家具をデザインした東京サレジオ学園の聖堂での音楽会の集りに、NTT都市開発の建築家苅谷武郎氏が出席されていた事に端を発する。私はその時、苅谷氏をテキスタイル作家林良子氏から紹介された。もちろん、初対面であった。

それから半年以上が過ぎた1992年の春頃だったと思う。苅谷氏からふいの電話があり、ご本人が設計担当している高層ビルの1フロアにレストランをオープンさせるに当り、アートワークについて相談したいとのことであった。何の前触れも無しに、どうでしょう、ひとつ作品を頼みたいなどは、大変光栄な話であるが、私にはアートワークオブジェの経験はほとんどない。しかし、苅谷氏の側にもオープンの際の時間の制約や何やらあって、とにかく進めることが先決といった事態であった。

今からすると、あの時私はかなり欲張って引き受けてしまったと思う。と言うのは、問題の制作物は3ヶ所もあり、苅谷氏も私に1ヶ所依頼して、あとは誰か良い人なり作品なりを紹介してもらいたい、程度のもりでおられたらしい。だが、私は日頃のデザイナーの習性で、3ヶ所共できますと言ってしまった。すなわち、デザインとアートは良く似ていながら実は異なったもの、という事をうかつにも忘れていたのである。

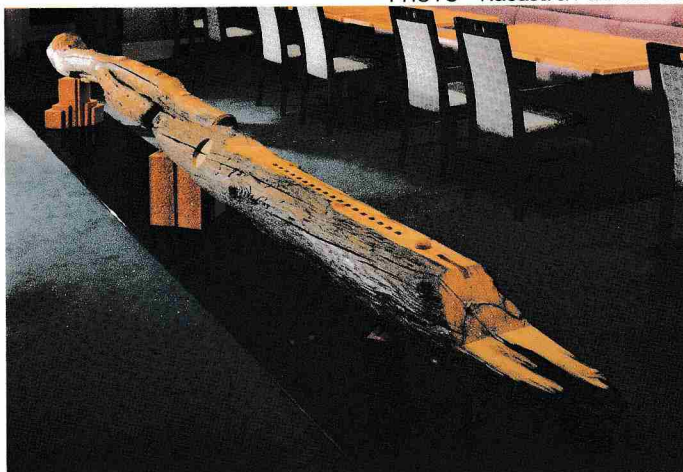
だが、引き受けたからには思いあぐんでいても仕方ない。ここに及んでもあくまでデザイナーの眼と切り口で攻めるのが正直なやり方ではないかと思った。それは、機能が無いデザイン、それでいて

アートではないアートとでも言おうか。こうして、余計なプレッシャーから解放されたたん、イマジネーションも素直に湧いてきた。和食堂の流木のオブジェは、インテリアで与えられた細長いスペースを意識して発想した。洋食スペースの一对の陶塊は、このビル全体が近くツインタワーとして完成するので、それをモチーフにした。宴会場のロビーのニッチには、賑やかなブロンズの揺らめきを視覚的に与えることとした。

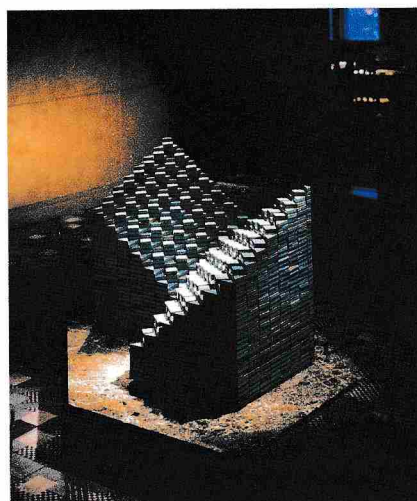
さらに、これらのイメージを実際のものにするために、実作をアトリエでこつこつ造るのではなく、それぞれの素材を扱う工場に製作してもらうことにした。

いわゆる発注芸術のような方法をとったが、図面やスケッチを示して職人衆に作ってもらおうという手法はデザイナーの最も得意とするところである。こうして、なんとか完成に漕ぎ付けることができた。この店には土地柄、外国人の客なども来るらしく、これは誰の作品なのかと私のものを指して聞いたりするらしい。「海龍」、「バベル」、「深炎」とそれぞれに命名してみたものの、本格的なアーティストの作品と並べられて亀が甲らに首をすくめるような気分である。苅谷氏から早くネームプレートを付けて下さい、と要請があつてからも何もしないままに、もうすでに一年が過ぎようとしている。

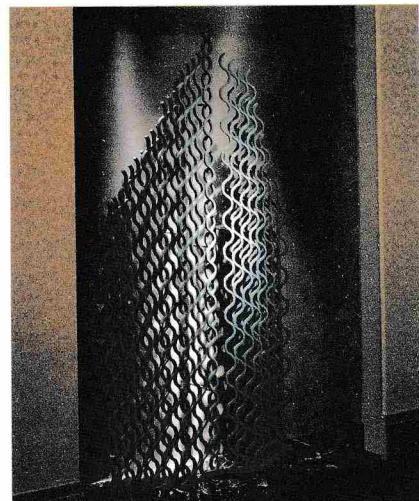
PHOTO Nacasa & Partners inc



海龍



バベル



深炎



今年のシンポジウムは次の日程で実施の予定です。

日時 平成6年5月13日(金)  
午後1時～5時  
場所 彦根市市民会館 大ホール  
主催 (社)日本建築美術工芸協会、  
共催 滋賀県、彦根市  
挨拶 (社)日本建築美術工芸協会会長 芦原義信  
滋賀県知事 稲葉 稔  
彦根市長 中島 一  
記念講演 文化庁長官 内田弘保

パネルディスカッション

テーマ 「水と景観」

パネリスト

澄川 喜一  
東京芸術大学美術学部長(彫刻) (社)日本建築美術工芸協会理事  
高城 修三  
大津市在住、S.53年第78回芥川賞受賞 近江歴史回廊構想策定委員会委員(作家)  
西川 幸治  
京都大学教授(建築)  
半田真理子  
建設省土木研究所環境部緑化生態研究室長(造園)  
日高 敏隆  
京都大学名誉教授(動物行動学)

司会 内井 昭蔵  
京都大学教授(建築) (社)日本建築美術工芸協会副会長

交流の集い 午後5時～

テーマ:「水と景観」

琵琶湖は日本最大の湖であると共に自然景観の美しさにおいても日本屈指の湖であります。また、歴史上からみても琵琶湖周辺は常にその表舞台となり、戦国武将をはじめ多くの人々が登場しました。特に琵琶湖は交通上の主要の地として古くから近江商人が行き交い独自の気風を生みだしました。

このような歴史的、地理的背景が琵琶湖を独特の風格のある景観を作りこの景観

が、多くの人々の心の中に生き続け「淡海文化」の形成の基盤をなしているといつてよいでしょう。

しかし一方では、琵琶湖は近代化、都市化の伸展にともない水質、環境、景観などの点で多くの問題をなげかけてきました。それらの問題に対し県は、いち早くとり組み我が国の環境問題対策の先駆

をなしているのです。

今回のシンポジウムは、このような琵琶湖をとり上げ水と都市、水と景観、自然の保全、水辺の保護、水と文化など幅広い問題を論じたいと考えました。

多くの人々の御参加を得て有意義なシンポジウムとなりますよう宜しくお願いいたします。

AAQA 社団法人日本建築美術工芸協会

## '94滋賀・彦根シンポジウム

平成6年5月13日(金) PM1:00～5:00★ 彦根市市民会館大ホール★

# 水と景観

● 記念講演 文化庁長官 内田弘保  
● パネルディスカッション  
パネリスト 澄川 喜一 (東京芸術大学美術学部長)  
高城 修三 (大津市在住、S.53年第78回芥川賞受賞)  
西川 幸治 (京都大学教授)  
半田真理子 (建設省土木研究所環境部緑化生態研究室長)  
日高 敏隆 (京都大学名誉教授)  
司会 内井 昭蔵 (京都大学教授)

主催/社団法人日本建築美術工芸協会 共催/滋賀県、彦根市  
後援/文化庁、(社)日本建築学会、(社)新日本建築家協会近畿支部、(社)滋賀県建築士会、(社)滋賀県建築士事務所協会  
(社)滋賀県建築設計家協会、(社)日本造園修景協会滋賀県支部、(社)滋賀県測量設計技術協会



○1993年12月17日(金)

ゲスト 株ウォーターデザイン専務取締役  
FUMIO KUWATAKA  
桑 高文雄氏



## 「アクアランドスケープ」 水景施設の現状と展望

かつて、庭園や広場のアクセサリであり、装飾物の域を脱しなかった噴水や滝などの水の演出に、近年、新たな幾つかの機能が求められるようになった。一つは、疑似自然の演出であり、親水空間の創出である。水は緑とともに自然を象徴する格好な素材であり、都市から消え去った自然の復活、自然を模倣・凝縮した人工の自然空間の創出には欠かすことのできない要素である。

一つは、河川や湖沼・ダムなど残された自然の水辺空間の開放である。ダムや河川などに設置された高射噴水は、渴きとけんそう(喧騒)の中に身を置く現代人に自然のダイナミズムを与え、集う人々に自然との積極的なふれあいの場をもたらしている。

もう一つは、都市空間において、環境芸術の一環として、水の演出が積極的に取り入れられるようになったことである。

さらにもう一つは、異分野のハード・ソフトとの複合・共演によるマルチ化であり、そこから新しい水の演出手法が生まれ、新たな水の表現ジャンルが誕生しつつあることである。ウォータスクリーンなどを被写体としたレーザー光線や映像の投影、光ファイバや特殊照明による



異次元の演出効果などは新しい。

物から心へ、機能から感性へ——の時代を迎え、都市空間にたくましい想像力とざん(斬)新なアイデアに満ちたさまざまな環境芸術を生みつつあり、こうした中に、水のフォルムやパフォーマンスを取り入れた作品が多く見られる。

実際水はそれ自体、感性を揺り動かす多くの特性と豊かな表現力を内包しており、自然の創出と相まって環境演出に最適の素材といえる。イサム・ノグチは70年の万国博(大阪)“宇宙空間の夢”で「宇宙空間の大自然を、水で表現することですから、彫刻的なオブジェより水自体が大切なのです」と語り(慧)星と題し高さ33mの空中の立方体から下に向かって噴射する噴水、惑星を模した回転十字から放射する噴水など従来の常識を破った新しい水の演出手法を見事に示してくれた。石の堅く量塊と虚の空間を清純で軽快な水のフォルムが走るもの、パイプのフォルムの軌跡が無限に変化を続けるもの、噴射する水の勢いでオブジェが動き、オブジェから噴射する水のフォルムも生き物のように空を舞うものなど、水は変幻自在な形態を持ち、送水・噴射・流下・貯溜など、極めて制御しやすく有と無、虚と実、そして形状や質量の変化など、金属や石や木材では表現できない演出効果を容易にする。さらに、水は温度の変化により蒸気となり霧や雲と化し、雨や雪となり氷となる。すでに霧や蒸気や雪などによる斬新な演出も試みられているが、無限の可能性を秘めた水の演出にあっては、これらも緒に就いたばかりといえよう。

今後、水景施設は従来の技術設備や装飾物としての認識から、環境に大きく影響を及ぼすアートとして評価され、そのデザインや演出は、既成概念にとらわれることなく、多くの異分野との交流と、自由な発想の中で展開されることが要求され、形態や形状・材質などのデザインから光・音・香り・動き・触覚など、五感をフルに刺激する“目に見えないデザイン”の時代へと向かおうとしている。



○1994年1月28日(金)

ゲスト 日本電子専門学校  
空間デザイン科講師  
MITSUKO SAKAGAMI  
坂上 みつ子氏



## 開発途上国の文化の行方 フィジーの建築と工法を通して

一口に開発途上国といっても、国毎にそれぞれ事情が異なる。良く知られているアフリカの国々のような、内戦や食料問題といった悲惨さは、太平洋島嶼国にはない。これらの国々の問題は、その国の小ささと孤立性にあると言えるだろう。彼らの祖先は、今から6千年前くらいに東南アジア本土から太平洋に進出していったと考えられており、その文化において、わが国と起源を同じくするものが少なからずある。それぞれの島の孤立性の故に、人為的にも、非人為的にも、外部からの刺激が少なく、文化の成長は緩やかなものとなり、16世紀にヨーロッパ人によって次々に発見されていった時、その文化はまだ石器時代のものであった。その後、近代西欧世界の辺境と位置づけられ、固有の文化は、記録され、一部は博物館に保存されはしたが、自然な成長を遂げる事はなかった。

パプア・ニューギニアとアメリカ合衆国に属しているハワイを除けば、これらの中で最も大きな島を持つフィジーも、近代産業を国内需要だけで支えられる程大きくはなく、輸出相手国の多くは遙か海の彼方であり、輸送コストが価格に大きく響いている。かつて植民地時代には、砂糖黍とコブラ(椰子油の原料)のプランテーションが二大産業であり、そのほかにも白檀等の天然資源が、欧米各国や中国の市場にとって貴重な産物であったが、今やそれらで国の経済を支える事は出来ない。一方、先進国の生活というものは、交通、通信技術が発達した現代において、ほとんどタイムラグ無しで押し寄せている。町には、車(その8割を日本車が占めるといふ)、電気製品、衣料品をはじめ、食品、雑貨に至るまで輸入品があふれ、貧富の差を増大させていく。こういった状況の中で、単なる経済援助が自立を促すであろうか。経済援助により、首都には光ケーブルが走り、官庁や企業では次々に新しいコンピュータが導入される。しかし彼らが切実に望んだ物



ではなく、与えられた物である為に、彼らの生活の中に本当に根付いているとは言い難い。援助の為に各国から派遣された人々も、恵まれた風土を大いに享受しつつも、自らの存在価値を強く感じる事が出来ない為に、この国は開発途上国ではないと不満を漏らす。

開発途上国に限らず、観光、特に日本人を当て込んだ観光産業が、経済において大きな比率を占める国は少なくないようだ。しかし、観光客が南の島に期待するのは、美しい海と美しい景色とエキゾチシズムである。風光明媚な場所は、リゾート地として地元の人々を閉め出し、ゴルフ場が、本来の景観を変えてしまう。これらの島々は、それぞれが小さすぎるために、熱帯雨林の保護という場合にも、東南アジアの様には話題にならない。また、一般にみやげ物として売られている工芸品の質は確かに低く、その割には、値段が高い。それは、輸入品がこの国の物価を押し上げているからである。旅行ガイドブックでも有名な、みやげ物の押し売りも観光産業の弊害という見方もできよう。

ここで視点を変えれば、一村一品運動など、様々な試みを暗中模索している我国の地方自治体と、抱えている問題が同

じ様な気もする。地球規模の地域振興政策的な発想、例えば、最近の新聞でも紹介されたエコミュージアム構想を観光の柱には出来ないものだろうか。博物館の中に彼らの文化を仕舞い込むのではなく、彼らの文化を理解し、その自然な成長に手を貸す事が、我々には出来るのではないだろうか。我が国の優れた建築家や工芸家の多くの方々に、関心を持って頂ければ、開発途上国が自らの文化を失う事なく、健全な国家として自立して行ける方策を見つける事が出来るのではないだろうか。そして我々自身も、自らの文化を新たな視点で見つめ直す事が出来るのではないだろうか。そんな事を考え始めた時に、トークで時間を頂けた事は大変幸運に感じている。



## AACATトーク 1994年度開催予定

- 1994年 5月20日(金)  
ゲスト 矢作 彩子  
建築家  
「トークカルチャー」  
—異文化のもたらすハブニング—
- 1994年 6月17日(金)  
ゲスト 川村紗智子  
陶芸家  
「地球に触る」  
—陶芸活動を通して—
- 1994年 7月15日(金)  
ゲスト 調査研究委員会  
坂上 直哉  
アーティスト  
「一つのテーブルから考える明日の風景」大地に美の模型を創る人々と共に  
—羽田空港他アートワークスより—
- 1994年 9月16日(金)  
ゲスト 伊部 京子  
造形家  
「空間造形の素材として」
- 1994年10月21日(金)  
ゲスト 伊藤 萌木  
金工家  
「金属の美しさを求めて」
- 1994年11月18日(金)  
ゲスト 酒井 忠康  
美術評論家  
～「彫刻」について～

なお、5月からトークの会場は「TOTO 銀座パビリオン9F会議室」になります。







SAYOKO SAKIYAMA

崎山 小夜子

崎山小夜子 INTERIORS  
東京都中央区日本橋箱崎町19-7  
リバー&タワー403号  
TEL. 03-3666-9177

こここのところ、モデルハウスの開発といった仕事が相次ぎ、各々に適するインテリア・デコレーションに追われている。時節柄、明るく開放的なイメージが欲しいと、急きょアンダルシアに旅をした。スペインには、かねてから旅の宿にと考えていたパラドールが存在する。パラドールとは国営ホテルのこと。1926年に、ハンターや自然愛好家のため宿を提供したいと、アルフォン13世にプレゼンテーションしたのがきっかけで、現在83軒を数える。大きく分けて二つのタイプがあり、近代的な建物と、歴史的建造物に手を加えて快適な宿泊施設に改装したものがある。後者のパラドールは、かつては城や王宮、修道院、豪族の邸宅であるだけに、ホテルとしてよみがえらすことは、貴重な文化遺産の保護にも一役かっている。

グラナダで、パラドール「サンフランシスコ」に立ち寄った。アルハンブラ宮殿の敷地内に建ち、その一部であったが、後に、迫り来るキリスト教徒に城をあけわたしてからは、修道院として使われていた建物である。広い食堂で、ローカルな昼食をとってパティオにたたずむと、一瞬、時は止まったかのように静寂のものであった。パティオを囲むアラビア風のサロンのしつらえは、異国情緒に拍車をかける。

グラナダから車を駆って地中海沿岸のコスタ・デル・ソルに向かう。延々300キロにわたる“太陽の海岸”ではマラガの街はずれにある「パラドール・デル・ゴルフ」に二泊した。ここは、文字どおりゴルフを楽しむお客達のために、ゴルフ場に隣接して建てた近代的ロッジである。異なるタイプのパラドールから得たインスピレーションが仕事に実を結んでくれるよう、努力を重ねたいと思っている。



KEIKO MURAKAMI

村上 慶子

皮革造形美術ド・オーロ会員  
日本現代工芸美術家協会会員  
我孫子市泉19-14  
TEL. 0471-85-0055

立木仏に興味を覚えたのは昨年の初夏のことでした。

立木仏とは、山上に高くそびえ立つ霊木や、雷が落ち、内部が空洞になりながら、根のついたまま、なおも生き続けている巨木を、ノミで頭部や胴体部を彫りそれに仏性を吹きこんだ仏像のことで、村人達は、これを尊び崇拝していたそうです。

最初に訪れた立木仏は、茨城県八郷町の峰寺山西光院（徳一上人開山）にあり、平安初期に作られたと言われる十一面観音像は、御身丈597cmもある一本造りの巨大な仏像で、元来は筑波山と峰寺山の間の丘陵、吉生部落の、立木山長谷寺高照院（これも徳一上人開山）にあったのを、同寺が廃寺となり、明治42年に村人達が西光院に移したそうです。

霊気あふれる仏像は、ハルニレという木に、素朴でおおらかな粗彫りで表現され、また大地につながる幹は、台座とみなされており、慈悲深いその顔だち、ずん胴の姿は、できるだけ、もとの木の形を変えずに造ろうとした当時の村人達の心が偲べれます。

残念ながら移動のさいに根は掘り起こされてしまいましたが、一緒に運び、奉られていました。

私は、仏像が実際にあった場所を見なくなり、吉生部落字上根にある岡崎家を訪ねました。

高照院が廃寺になったさい、村人達はその山を分かちあったそうで、ちょうど立木仏のあった場所に当たった岡崎家では、そこに小さな石仏を造り、周りを縄で囲みお守りしていらっしゃいました。

そして仏像を峰寺山の中腹にある西光院に運ぶさいには、各家庭から一人代表を出し、険しい山道を皆でかつぎ、運んだらと、今の当主、岡崎 昇氏は話してくださいました。

今年の正月には、日光中禅寺にある、立木仏を訪ねました。

これは、カツラ材で造られた、寄木造りの千手観音像で、御身丈535cmの雄大な仏像で、男体山より運ばれてきたそうです。

現在、室町時代以前に造られたと思われる立木仏は、全国に八体あるそうで、後の六体を時間を見つけては、訪れて見たいと思っています。



発行：社団法人日本建築美術工芸協会

Phone 03-3457-7998

Fax 03-3457-1598

〒108 東京都港区芝5-26-20

建築会館6F

振替：東京 1-365085

編集：(社)日本建築美術工芸協会広報委員会

柳澤孝彦(委員長)、宇津野和俊(副委員長)

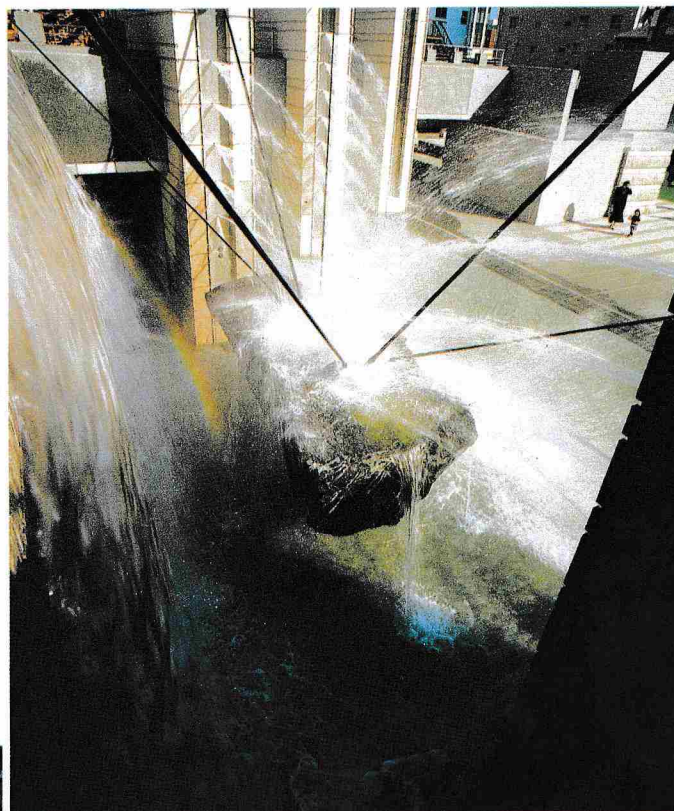
大多了介、坂上みつ子、崎山小夜子

高部多恵子、玉見 満、富田俊男

製作協力：(株)SP建材エージェンシー



# 感性を具現



水戸芸術館(茨城)

水景・造形・広場・公園緑地  
企画・設計・制作・施工



雄勝硯伝統産業会館(宮城)



一宮市光明寺公園(愛知)



北区第一庁舎(東京)

## 株式会社 ウォーターデザイン

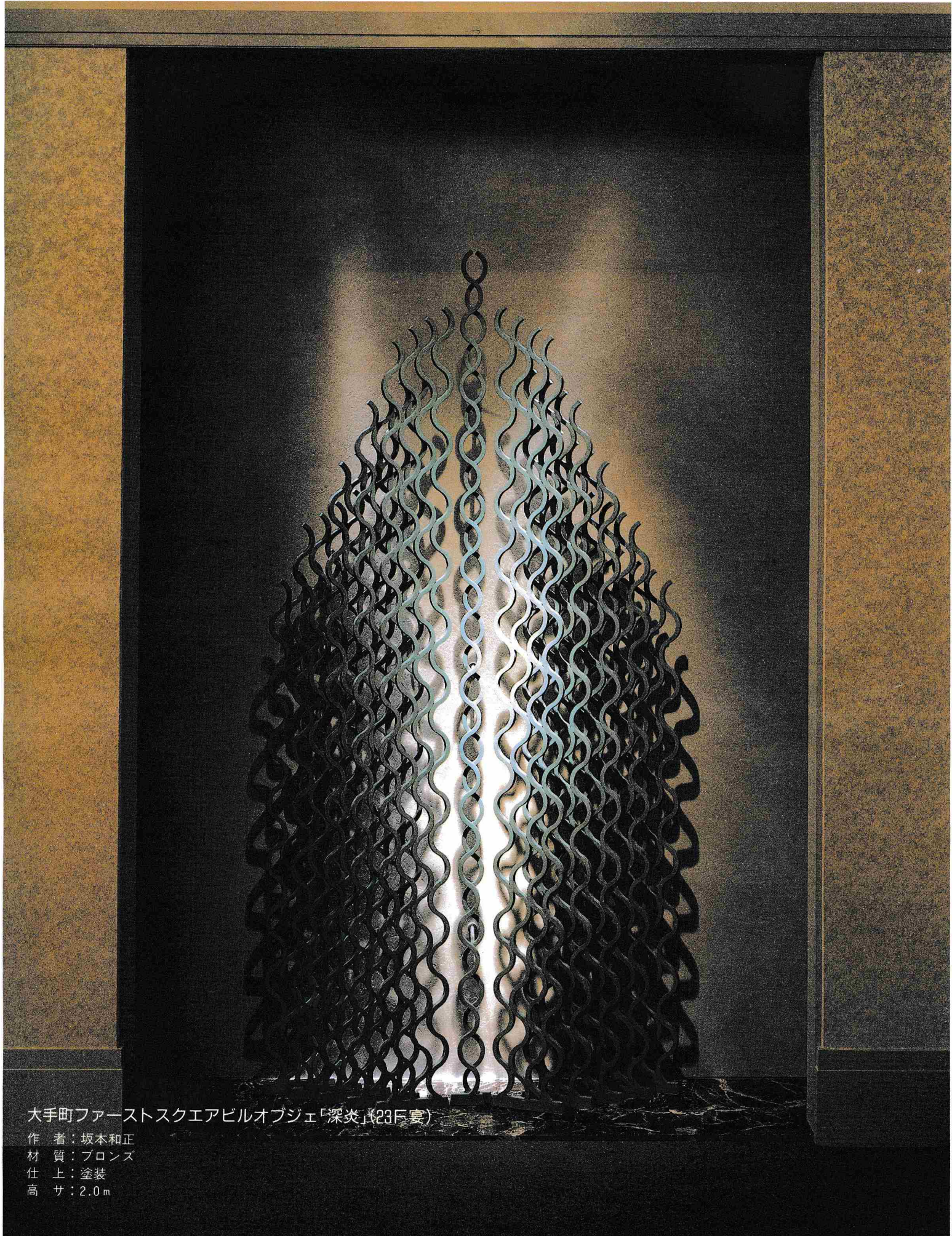
本社 〒105 東京都港区新橋6-9-2 新橋第一ビル TEL03-3431-8070(代) FAX3431-8116

大阪 〒541 大阪市中央区北久宝寺町2-2-13 マエダビル TEL06-262-7039 FAX262-7038

福岡 〒810 福岡市中央区大手門1-8-8 第二渡部ビル TEL092-721-1034 FAX721-1354

仙台 〒980 仙台市青葉区二日町8-1 熱海第一ビル TEL022-211-8411 FAX211-8410





大手町ファーストスクエアビルオブジェ「深炎」(23F宴)

作者：坂本和正  
材質：ブロンズ  
仕上：塗装  
高さ：2.0m

PHOTO Nacása & Partners inc

 METAL ARCHITECT  
KIKUKAWA

菊川工業株式会社 本社 〒130 東京都墨田区菊川2-18-10 TEL03-3634-3231(代表)





"PORTALS" 1993年 アルミニウム H.4.8m ジョージ・シュガーマン作 神戸クリスタルタワー

撮影：村井 修

 **現代彫刻センター**  
CONTEMPORARY SCULPTURE CENTER

本店/〒104 東京都中央区銀座3丁目10番19号 美術家会館 TEL.03(3542)7505(代表)・03(3542)0138(ギャラリー専用)  
目黒分室/〒141 東京都品川区上大崎2丁目13番22号 シーアイマンション白金204号 TEL.03(3280)3981(代表)  
海外駐在員/ローマ・パリ・ニューヨーク



あゆんできた道。  
きずいてゆく道。



ひとの毎日を、

もつともつと素敵にする

お手伝いをしたい。

いま、わたしたちは、

建設という仕事をおして

どんなお役にたてるのか、

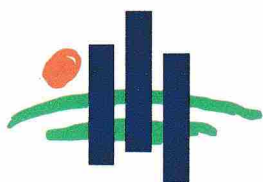
じっくりと考えています。

これまでの道を、

静かに振りかえりながら。

燃える思いを、

胸につよく抱きながら。



TAISEI

大成建設株式会社

本社 東京都新宿区西新宿1-25-1